



雪害への備え

寒さもひとしお身にしみる頃となりました。降雪が多い地域では、雪害対策が必要となる時期です。また、降雪が少ない地域でも、地面の凍結等に十分ご注意ください。



冬の天候について

最近10年間の冬の天候の特徴として、2010/'11年～2013/'14年は低温や大雪の地域が多く、2014/'15年以降は高温や少雪の年が多い傾向です(表1)。

気象庁によると、2020年12月～2021年2月の降雪量の予報は、北日本の日本海側で平年並みか少ない見込み、東日本の日本海側でほぼ平年並み、西日本の日本海側で平年並みか多い見込みとなっています。

表1.最近10年間の冬の特徴

2010/'11	12月末～1月末日本海側で大雪、低温 冬型多く、北～西日本は3ヵ月連続低温 最近10年間では“平成18年豪雪”に次ぐ積雪
2011/'12	北・東・西日本で低温 北日本日本海側を中心に多雪
2012/'13	東日本、沖縄・奄美で低温 2月に関東甲信で記録的大雪 日本海側の平地は少雪
2013/'14	12月は全国的に強い寒気が流れ込むが、1月以降は少雪
2014/'15	冬型の気圧配置が長続きせず、全国的に高温・多雨・少雪
2015/'16	日本付近への寒気の南下が弱く、全国的に高温
2016/'17	日本付近へ強い寒気の流れ込むことが多く、全国的に低温
2017/'18	東日本以南は寒気の南下が弱く、沖縄・奄美は記録の高温
2018/'19	日本付近への寒気の南下が弱く、全国的に高温。東・西日本は記録の暖冬
2019/'20	

出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf6/001.pdf>)

大雪による畜産関係の被害

農林水産省のとりまとめでは、2017年～2018年の冬期の大雪による畜産関係の被害として、畜舎等に被害を受けた地域が多く、被害額も大きくなっています(表2)。

表2.2017年から2018年までの冬期の大雪による畜産関係被害

主な被害	被害数	被害額 (億円)	被害地域 (29都道府県より報告あり)
家畜のへい死等	544頭	0.0	北海道
生乳	1 t	0.0	岩手、石川
畜舎等	171件	2.6	北海道、岩手、秋田、山形、福島、新潟、富山、石川、福井、滋賀、京都、愛媛、佐賀、熊本

出典：農林水産省ホームページ (<https://www.maff.go.jp/j/saigai/setgai/20170111.html>) をもとに作成



雪害対策のポイント

- ☐ 畜舎等の雪下ろしを行う際には、滑りにくい履物を履き、足場や高所からの転落、転倒等に注意する。
- ☐ 大雪や吹雪等の悪天候時には、作業は行わない。
- ☐ 畜舎内やパドックが凍結した場合は、砂や融雪促進剤等の散布を行い、転倒を予防する。
- ☐ 積雪にともなう物流の遅延などに備え、あらかじめ飼料、燃料、家畜の飲水などを十分確保する。
- ☐ 畜舎環境の悪化により生産性が低下しないよう、換気扇、窓の開閉をこまめに実施する。
- ☐ 畜舎軒下等に置いてある機械類は、落雪による破損防止のためできるかぎり屋内へ収納する。
- ☐ 降雪等により施設や倉庫等の管理や巡回ができない場合もあるため、日頃から出入口等の施錠を確認するなど、防犯対策に留意する。
- ☐ 農協やくみあい飼料への連絡手段を確認し、被災時には早急に対応できるようにする。